

男声合唱団サミット in みはま 福井県の男声合唱の祭典 2023

福井県三方郡美浜町の男声合唱団サミットは、コロナ禍で中止が重なりましたが、2022年によやく3年ぶりに開催されました。今年で8年目を迎え、県内の男声合唱団5団体が集い、力強い歌声を響かせます。

・7月23日(日)

開場13:00/開演13:30

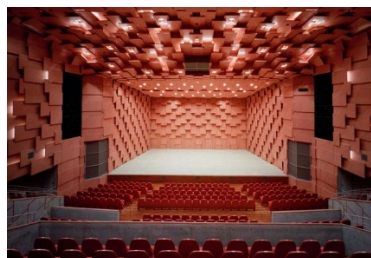
・美浜町生涯学習センター

「なびあす」文化ホール

出演 男声合唱ゴールデンエイジふくい、アンサンブルG・G、男声合唱団ダンネリオン、男声合唱フロッグス、男声合唱団メンズ・コール・ミハマ

ゲスト なびあす子ども合唱団

全席自由/一般500円・高校生以下無料



「なびあす」は、2012年オープン。文化ホール・公民館・図書館が一体化した文化複合施設。ホールは、舞台と客席の境界線がはっきりと分かれた、プロセニウム形式。ホール内の壁面や天井は、海に面した美浜町の魚の群れや鱗がイメージされた、木製のパネルで覆われており、これで反射音が生まれ響きの良い空間を創り出しています。

「なびあす」とは、「学び」の「なび」、「私達」を意味する「us」を由来とした造語です。「私たちの生涯学習センター」として町民に愛される施設を願ってつけられました。

※全国の男声合唱の大会を「**全国主要男声合唱大会総覧**」としてまとめています。意外に知られていない大会もあるようです。総覧に掲載されていない大会をご存じの方はご一報頂けるとありがたいです。

rkato.sakura.ne.jp/music/zenkoku_danfes_souran.html

『レコード芸術』休刊！時代はめぐる

クラシック・レコード評論の専門誌『レコード芸術』(レコ芸)が、「休刊のお知らせ」を出したのは今年の4月でした。さまざまな分野の雑誌の休刊が続く中、いよいよここまで来たかという一抹の寂しさをその時には感じたものでした。



アジサイ 牧野新日本植物図鑑より

そして最終号の「7月号」が発刊されました。同誌は、1952年3月創刊、クラシック音楽のレコード紹介を中心にした評論は多くのファンを獲得してきましたが、近年の雑誌出版を取り巻く環境の悪化により「休刊」に追い込まれてしまいました。個人的には、20代の頃からレコードを買う時の参考にしていましたし、オーディオ評論家長岡鉄男さんが担当するコーナーも愛読していました。

現代は完全にCD全盛時代となり、レコードは死語になりつつあります。マニアの中で残っているいででしょうか。

レコ芸休刊の話題は、6月19日付読売新聞でも「レコード芸術休刊波紋」と題して取り上げていました。「批評の場失われる」として、存続を求める3400人の署名が集まっています。これを受け、音楽之友社は70余年にわたり蓄積された資料(財産)の活用については、これから検討すると述べています。

ふつう、雑誌等の発行を止めるときはなぜか「休刊」といい、みずから「廃刊」とはいいません。新聞の「休刊日」といえばある一日の発行を止めることで、まさに一休みを指します。しかし、雑誌等でいう「休刊」はあくまで再発行の余地を残しておくぞ、という淡い期待を込めた表現であり、ほとんど「廃刊」に等しいものです。そこには編集者の無念の思いが滲んでいます。

ここで思い出すのは「**歴程**」という同人詩誌のことです。昭和10年、菱山修三、岡崎清一郎、高橋新吉、逸見猶吉、尾形亀之助、草野心平、中原中也、宮澤賢治、土方定一が名を連ねて創刊した雑誌です。宮澤賢治は創刊前の昭和8年に死去しているので物故同人の形をとっています。この詩誌が数年前投稿数の不足から廃刊の危機に見舞われました。

そこで、同人に対し詩の原稿を出すよう盛んに働きかけたり、2か月分をまとめて出版するなど必死に活動した結果、今では立派な詩誌として発行を続けています(下記サイト参照)。『レコ芸』も何らかの形で資料を後世に伝えてほしいと思います。

http://rkato.sakura.ne.jp/kotoba/k22_rekitei.htm